

令和6年度 管理職総会 教育長訓示

令和6年度がスタートいたしました。

各学校園の管理職の皆様方には、平素より本市の保育・教育に多大なるご尽力をいただき、心より感謝しております。年度の始まりにあたり、教育長としての訓示をいたします。

今年度は第2期大阪狭山市教育振興基本計画の最終年となります。第2期計画の基本理念は「学びあい、つながりあい、未来に輝く人づくり」でありまして、めざす子ども像は「自分らしく、いきいきと学び、さやまを愛する子」でございます。

これまでも、管理職の皆さまには、学校園・家庭・地域が連携・協働し、安全で楽しい「地域とともにある学校園」づくりを進めていただいております。その中で、一人ひとりの子どもを大切にし、着実に力を伸ばすことを切に願っているところでございます。

一人ひとりの子どもを大切にする、その核となる考え方として、「子ども理解」が重要となります。日々の保育や授業、行事等から子どもの状況や成長、課題を把握し、教職員間だけでなく、保護者と丁寧に共有し、状況に寄り添った指導や支援を行い、健やかな学びと育ちにつなげていただきたいと考えております。

さて、保育・教育をより効果的に進めるには、冒頭でも申し上げましたが、学校園・家庭・地域との連携は欠かせません。小学校は、今年度で全校がコミュニティ・スクールとなり、中学校は準備段階に入ります。

子どもたちにも「ふるさとであるさやま」を大切に想う心を育てたい。そのため、狭山のことを授業の中で学ぶことができるよう、全ての小中学校を文部科学省の認可を受け、「教育課程特例校」といたしました。また、小中学校9年間系統的に学んで欲しいと考え、施設は離れていますが、小中一貫校にもいたします。

小中学校におかれましては、「地域とともにある学校」として、また、「グローバル人材の育成」に向けて、英語学習や地域学習を様々なツールを活用しながら系統立てて進めていただくようお願いいたします。

幼稚園やこども園、また、お忙しい中、お越しいただいている民間園においては就学前を担う役割として、引き続き、地域や校種間連携を意識した取組みを推進いただくとともに、ほとんどの子どもが入学する市内小中学校の動きについて、ご理解のほど、合わせてお願いいたします。

また、本日は大阪府立狭山高等学校の松永校長にも参加いただいております。狭山高等学校は、国際感覚を備えた地域に貢献できるリーダーを育成する学校（Glocal High School）をめざしており、国際交流と地域連携の取組みを積極的に行っています。大阪狭山市内で唯一の高等学校であり、地域の清掃などのボランティア活動、小中学校との交流、市の行事やイベントへの参加など、これまでも、地域に根差したさまざまな取組みを進めておられます。加えて教育課程の中で本市のまちづくりについても学習を進めており、大阪府教育庁からも、狭山高校の地域との結びつきを一層深めていきたいと聞いております。

教育委員会としても可能な限りのサポートをしてまいりますので、狭山高校におかれましては、本市の子どもたちへのさらなる関りをお願いいたします。

本市は近隣自治体に比べ、子育て世帯から様々評価をいただいております。東洋経済新報社が、「子育てするならどこがいい？」という視点で、全国 812 市区を対象とした「子育てしやすい自治体」ランキングで、大阪狭山市は 2 年連続大阪圏 3 位、大阪府内では 1 位にランクインしました。この結果は全てここにお集まりの皆さまのご尽力の賜物だととらえております。

今、教育は大きく変わろうとしています。

教育委員会といたしましても、子どもたちにとって安全でより良い教育・保育環境の実現をめざして、「大阪狭山市立学校園の適正規模・適正配置に関する実施方針」の策定を進めており、その素案を作成したところです。その中に、今後 10 年間を見据えて、特に優先的に取り組んでいく事項として、3 点を挙げております。

1 点目は、市内の七つの小学校のうち、現在すべての学年で単学級となっており、小規模校となっている南第三小学校について、原則、通学区域を設けない特認校とすること。

2 点目は、将来的に大規模校となる見込みであるとともに、長年にわたって狭隘な運動場が課題となっている狭山中学校を建て替えるということ。

3 点目は、本市の就学前保育・教育の魅力向上を図るため、幼稚園、こども園を統合し、新たなこども園を整備することでございます。

これらの方針の策定にあたっては、市民のみなさまからご意見をいただき、方針の内容を精査していきたいと考えております。

これら以外にも、1 人 1 台端末を活用した授業や部活動の地域移行、また教員の働き方改革など、取り組むべきことはたくさんございます。

この後、教育監より今年度を中心施策について、いくつか紹介がありますが、どれも「さやまを愛する子」の育成に資するものだと自負しております。それぞれのお立場、それぞれの学校園の創意工夫で本市の将来を担うであろう子

どもたちの学びと育ちの充実に努めてまいりたいと考えております。

令和6年度も管理職の皆さまと教育委員会の関係者が一体となり、本市の保育・教育がますます発展できますよう、ご奮闘をお願いいたしまして、私の年度初めの訓示といたします。本年度も一年間、どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年4月2日

大阪狭山市教育委員会教育長 竹谷好弘